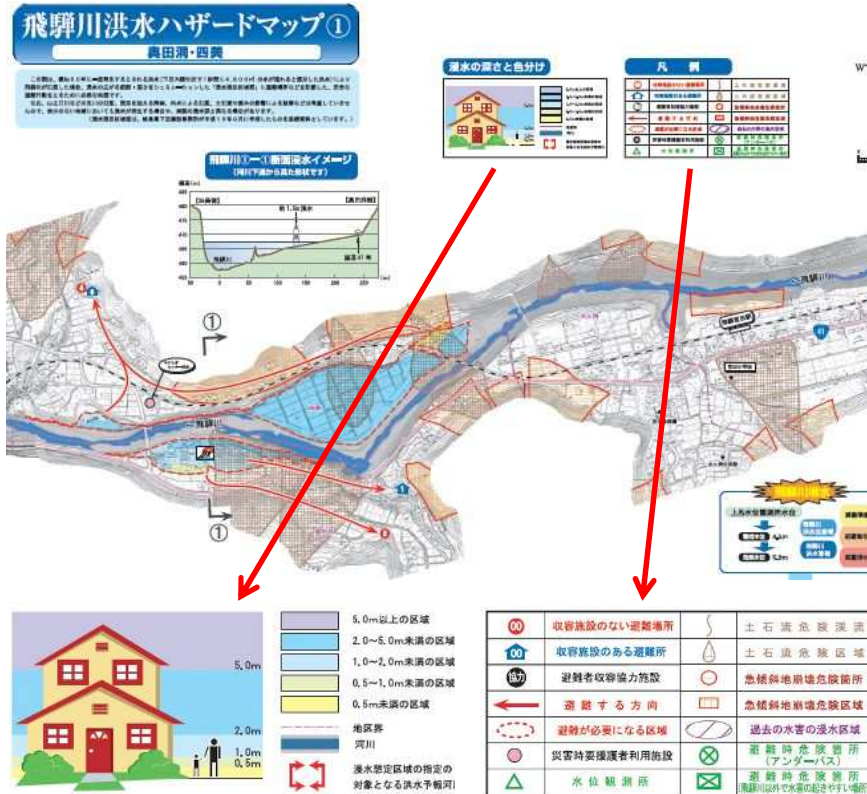


自助・・・自らの命は自ら守る！

四季の移ろいとともに、自然が見せる姿は時に大きく変化し、脅威そして災害へと変わります。雨は多くの恵みを与える一方、出水期には浸水被害や土砂災害など命にかかわることもあります。

下呂市では、こうした浸水被害から命を守るため『[飛騨川洪水ハザードマップ](#)』を作成しています。



概ね 50 年に一度発生すると想定される大雨により、飛騨川が氾濫し、堤防の決壊等により、洪水災害が発生した場合の、浸水予測結果を示した「浸水想定区域図（平成 15 年 9 月 岐阜県 下呂建設事務所 作成）」に基づき、下呂市萩原町宮田地区から 下呂市三原地区の住民の皆さんに、安全・迅速に避難していただき、洪水による被害を、最小限に抑えるために作成されています。



ハザードマップには、浸水想定地域を色分けし浸水想定の高さがわかりやすく示されています。また、避難する場所や方向、急傾斜地崩壊危険箇所などの情報も掲載しています。

なお、支流の氾濫や想定を超える降雨、内水※¹による氾濫、土石流や流木の影響による被害などは考慮されていませんので、表示のない地域でも浸水の発生する場合や、想定以上の浸水が発生する場合があります。また、避難する方向なども**実際の災害発生時には想定と違うことがあります**ので、普段から自分が避難する場所や、自宅周辺の危険箇所を知っておくことが大切です。

危険を感じたら、避難勧告や避難指示を待たず安全な場所へ自主避難することが大事です。また、避難するときは、**隣の方や班長（組長）さんなどに声をかけましょう。一人での行動は危険です。**

また、夜間など外に出ることが危険な場合は、家の中でも比較的安全な、**2階などに屋内避難**も有効です。

※1 河川の水を外水と呼ぶのに対し、堤防で守られた内側の土地（人がすんでいる場所）にある水を「内水（ないすい）」と呼びます。

次回は、DIG訓練についてお知らせいたします。